

第7章 計画の推進について

7-1 情報基盤の整備と活用

従来の事後保全を基本とした施設管理から長寿命化を目指した予防保全型の施設管理に転換していくためには、教育施設の老朽化状況を継続的に把握することが重要です。

公共施設マネジメントシステムを活用し、施設の基本情報、光熱水費をはじめとする運営経費、各種点検における修繕必要箇所などの情報、並びに工事履歴や維持管理経費等を一元管理します。

7-2 推進体制等の整備

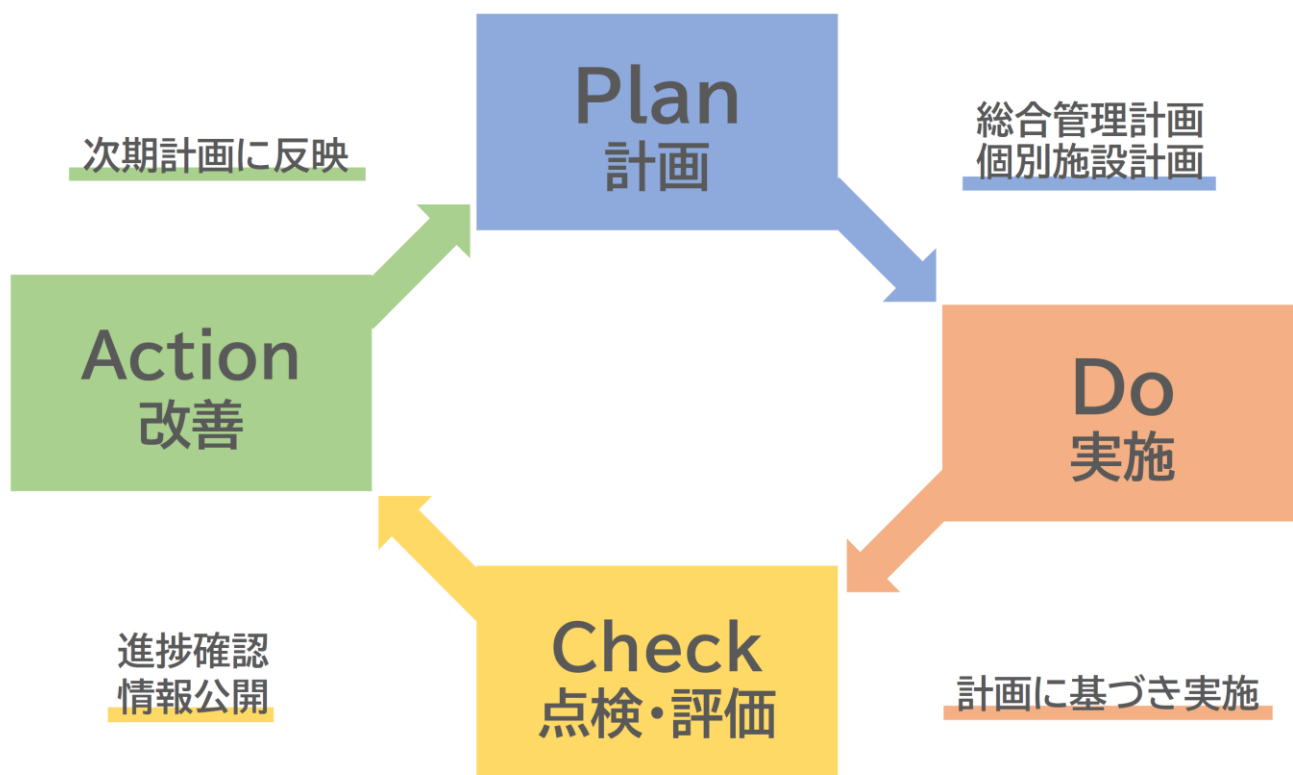
教育施設の老朽化は今後も進行し、設備等の劣化も年々変化していくなか、児童生徒数の変化や教育施設を取り巻く状況の変化に伴い、教育施設に求められる機能や整備水準も変化していきます。

こうした変化を的確にとらえ、効率的かつ効果的に施設整備を進めていくために、施設の所管課を中心に、本計画を含む学校施設のマネジメントを行っていきます。また庁内とも連携を図っていくものとします。

7-3 フォローアップ

本計画の推進にあたっては、進捗に応じて、内容を把握・評価し、実施内容や計画の達成状況に基づく適切な改善を行うことが求められます。そのため、PDCAサイクルの考えに基づく事業推進に取り組めます。

特に、本計画は、学校施設を維持させていくことを前提としたものであり、市全体の財政計画において年次及び個別の事業費を精査していくとともに、事業の進捗状況、少子化等の社会状況を踏まえた上で、10年ごとに見直しを図るものとします



7-4 市民との情報共有・協働のあり方について

学校施設は、学校・家庭・地域の連携・協働に基づく生涯学習の基盤として、関係者の参画を得つつ計画することが重要とされています。PTA 活動や学校開放など、学校や地域の特性に応じた多様な活動に伴った防犯対策を実施し安全性を確保した上で、地域に開かれた場となるよう検討していきます。